岡山県内の農業高校教員の研修会を受け入れました

令和3年1月7日

令和2年12月16日、岡山県高等学校教育研究会農業部会・生物工学班の教職員の皆様12名が関西育種場を訪れました。

同部会は、岡山県内の農業関係学科を持つ高校教職員の方々により構成され、毎年、研修会を行っているそうで、今回は関西育種場がある岡山県勝央町内の岡山県立勝間田高等学校が担当校となっており、研修の一環として当場の業務を見学したいとのご要望をいただきました。

コロナ禍の最中でもあり、感染対策にご協力いただきならの受入れとなりました。

始めに、関西育種場の管轄区域について説明し、続いて林木育種センターの主な業務内容である、優良品種の開発（エリートツリーや特定母樹、花粉症対策品種、マツノザイセンチュウ抵抗性品種など）、林木ジーンバンク事業（林木遺伝資源の探索や収集、「遺伝子銀行110番」など）、原種の配布、技術指導などについての概要説明を行いました。

その後、場内の現場案内に移りました。先生方は、花粉症対策品種についてご関心があるようでしたので、花粉をつくる雄花をほとんど着けないスギやヒノキ（少花粉スギ、少花粉ヒノキ）からなる原種園の造成目的や、これら原種園から採取した穂木をさし木やつぎ木により育成した苗木を苗畑で育てる工程などについて説明を行いました。

最後に、場内案内図により、場内で行なわれている主な取組について説明し終了となりました。

品種改良の基本的な概念やジベレリン処理、人工交配といった品種開発のための基本的な工程は農作物の育種でも共通することから、一定のご理解をいただけたようです。

先生方は、短期間で結果がでる農作物の育種とは異なり、長い年月が必要な林木育種の特殊性についても関心が深く、育種期間の短縮に向けた技術開発の取組などについても活発なご質問をいただきました。

①　業務概要の講義

②　少花粉スギ原種園

③　少花粉ヒノキ原種苗木

（関西育種場）